

身近な公園



BOOK

平成29年9月

国土交通省 国土技術政策総合研究所

緑化生態研究室

－はじめに－

皆さんが、日ごろ利用する身近な公園。ふだんは、子どもの遊び場、散歩・休息の場、健康づくりの場など、さまざまな目的で使われていますが、災害時には大変重要な役割を果たします。

平成28年4月に発生した熊本地震では、熊本市内で本震直後に少なくとも約11万人の市民の方が自宅外の避難所に避難し、そのうち約1万人以上が、市の地域防災計画で指定されていない避難場所（いわゆる「指定外避難所」）に避難しました。その中には、自治会、自主防災組織、消防団、民生委員、公園愛護会などの地域組織が中心となり、身近な公園を指定外避難所として利用した例も多く確認されています。平成7年の阪神・淡路大震災、平成16年の新潟県中越地震、平成23年の東日本大震災でも公園が市街地火災の延焼防止に役立ったり、緊急避難の場所、一時的避難生活の場所、自衛隊・警察・消防・ボランティアなどの支援拠点、仮設住宅の用地、ガレキ置き場、帰宅困難者の支援場所などとしてさまざまに利用されています。

一方で、防災機能を持つ身近な公園に、防災施設としてどんなに施設・設備があったとしても、それらを利用する人がしっかり使い方を理解して、日ごろから使いこなしていかなければその機能を十分に発揮することはできません。

そのため、公園愛護会、公園協議会、自治会、自主防災組織、消防団、民生委員など、災害時に地域の防災や公園利用にかかわる地域住民の方々に、災害時の公園の機能や利用方法、そして日ごろからの備えについて知っていただき、日ごろの地域活動に役立てて頂くことを目的として、本書を作成しました。

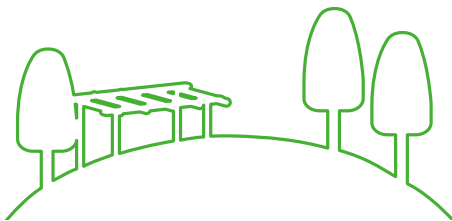
なお、身近な公園の役割は、いつも、どこでも同じということではなく、地域の地形などの状況や、災害の種類、規模によって異なる場合があります。皆さまには、本書とあわせ、お住まいの市町村の防災に関する計画もご確認いただければと思います。

本書を多くの方に読んでいただき、災害時に身近な公園が効果的な防災機能を発揮し、地域の更なる防災力の向上に役立つことを願っています。

平成29年9月

国土交通省国土技術政策総合研究所

緑化生態研究室



写真提供者一覧（敬称略）

緒方 宏明、川口 富子、坂田 勉、田中 康、布田 美智夫、由川 一夫
公益財団法人 東京都公園協会、一般社団法人 日本損害保険協会
大都市都市公園機能実態共同調査実行委員会・一般社団法人 日本公園緑地協会
遠野市、堺市、広島市、北九州市

－ 本冊子の構成 －

はじめに	1
本冊子の構成	2
事例に学ぼう 災害時に役立つ公園の姿	3

防災使いこなしポイント (● = 日ごろの備えポイント ● = 災害時の行動ポイント)

● -1 身近な公園と地域を知ろう	5
● -1 落ち着いて安全に避難しよう	6
● -2 公園の防災施設を使ってみよう	7
● -2 知識と腕で防災施設を活かそう	8
● -3 楽しくコミュニティを育もう	9
● -3 地域で助け合い、協力しよう	10

事例に学ぼう みんなで楽しく！！防災訓練	11
----------------------	-------	----

LET'S BOUSAI!

● 防災マップをつくろう	13
● マイ持ち出し袋を用意しよう	14
● 知っておこう！公園の防災施設	15
● 災害時のトイレ対策	16
● 健康管理・衛生管理のポイント	17

おさらい / 間違えやすい用語	18
-----------------	-------	----

防災使いこなしポイント



「日ごろの備え」と「災害時の行動」のポイント、それぞれ3ステップで紹介しています。また、日ごろの備えが災害時に行動に繋がっていることが分かりやすいよう、それぞれのポイントを交互に掲載しています。

LET'S BOUSAI!



使いこなしポイントを踏まえ、地域の方々と一緒に具体的にアクションを起こすために必要な情報をテーマ毎に掲載しています。

事例に
学ぼう

災害時に役立つ公園の姿

大規模火災 の延焼防止



阪神・淡路大震災
延焼を防ぐ大園公園（神戸市）(写真：毎日新聞社)

阪神・淡路大震災では、地震による家屋倒壊とともに火事による被害も甚大なものでした。公園というオープンスペースの存在そのものや、樹木が延焼を防いだ事例も少なくありません。

緊急避難 の場

発災直後、身近な公園は、家屋等の倒壊や火災などの危険から身の安全を確保するための緊急避難の場となります。熊本地震でも本震直後に身近な公園に指定外避難所を設置した事例が確認されています。



熊本地震
八王寺中央公園（熊本市）
での直後避難



熊本地震
八王寺中央公園（熊本市）での直後避難



熊本地震
泉ヶ丘公園（熊本市）内の集会所への直後避難
2016/04/11



阪神・淡路大震災
津知公園（芦屋市）のテント村



熊本地震
国府公園（熊本市）での炊き出し

一時的な 避難生活 の場



阪神・淡路大震災
津知公園（芦屋市）での情報交換・救援物資の配布



阪神・淡路大震災
栄公園（神戸市）での一時的な避難生活



熊本地震
渡鹿公園（熊本市）での炊き出し

公園が炊き出し、情報交換、救援物資の配布等が行われる、一時的な避難生活の場となることもあります。

仮設住宅 の用地

グラウンドなどの敷地がある公園では、仮設住宅用地にもなります。



阪神・淡路大震災
手水公園（神戸市）に設置された仮設住宅

支援 拠点



東日本大震災
遠野運動公園（岩手県）における自衛隊ベースキャンプ

防災拠点となる公園は、被災者の救出・救助等に当たる自衛隊、消防、警察等の支援部隊の活動の拠点として活用されます。



身近な公園と地域のことを知ろう

災害時の地域のことを考えることから「防災」ははじまっています。まずは自分たちの地域の状況や身近な公園の役割を知ることが大切です。

！ 身近なオープンスペースや避難ルートを確認しよう

地震のときに落下物の危険のない、安全な場所となる「身近なオープンスペース※」や、歩いて安全に避難できるルートなどを、ふだんから確かめておくことが大切です。

※身近なオープンスペースとは、公園をはじめ、学校の校庭、河川敷等があります。

！ 公園の役割を確認しよう

災害時に公園を緊急避難の場や一時的な避難生活の場として利用する上で公園が地域のなかでどのような役割を担うかを確認・共有しておくことが大切です。地区防災計画の中にも身近な公園を地域住民の皆さんの安全を確保する施設のひとつとして位置づけておくことが重要です。

！ 地区防災計画をつくろう

自治会、自主防災組織、公園愛護会、公園協議会等の防災活動を推進するには、「地区防災計画」を定めることが効果的です。地区防災計画は、災害時や復旧・復興期などの各時点において、様々な防災活動について誰が、何を、どれだけ、どのように行うか、それぞれの地域の状況に応じて、計画を作成します。

※地区防災計画とは
平成25年の災害対策基本法の改正に伴ってできた新しい制度です。市町村などの一定の地区の居住者等が行う自発的な防災活動に関して、計画を定めることができるようになりました。



出典：内閣府（防災担当）「地区防災計画ガイドライン（H26.3）」



落ち着いて安全に避難しよう

地震が起きたら安全なオープンスペースへの避難が第一です。緊急の避難場所となる公園を知っておくことが、災害時のスムーズな避難に繋がります。

過去の震災からの教訓①

熊本地震では、震度6強の前震のあとに震度7の本震が発生し、多くの家屋が倒壊しました。建物内に滞在することの不安から、多くの地域住民の方が屋外に避難しました。

関東大震災、阪神・淡路大震災、新潟県中越地震、東日本大震災、熊本地震などの地震災害でも公園は緊急の避難場所として重要な役割を果たしました。



熊本地震本震直後における公園内の集会所への緊急避難の様子

とにかく まずは避難

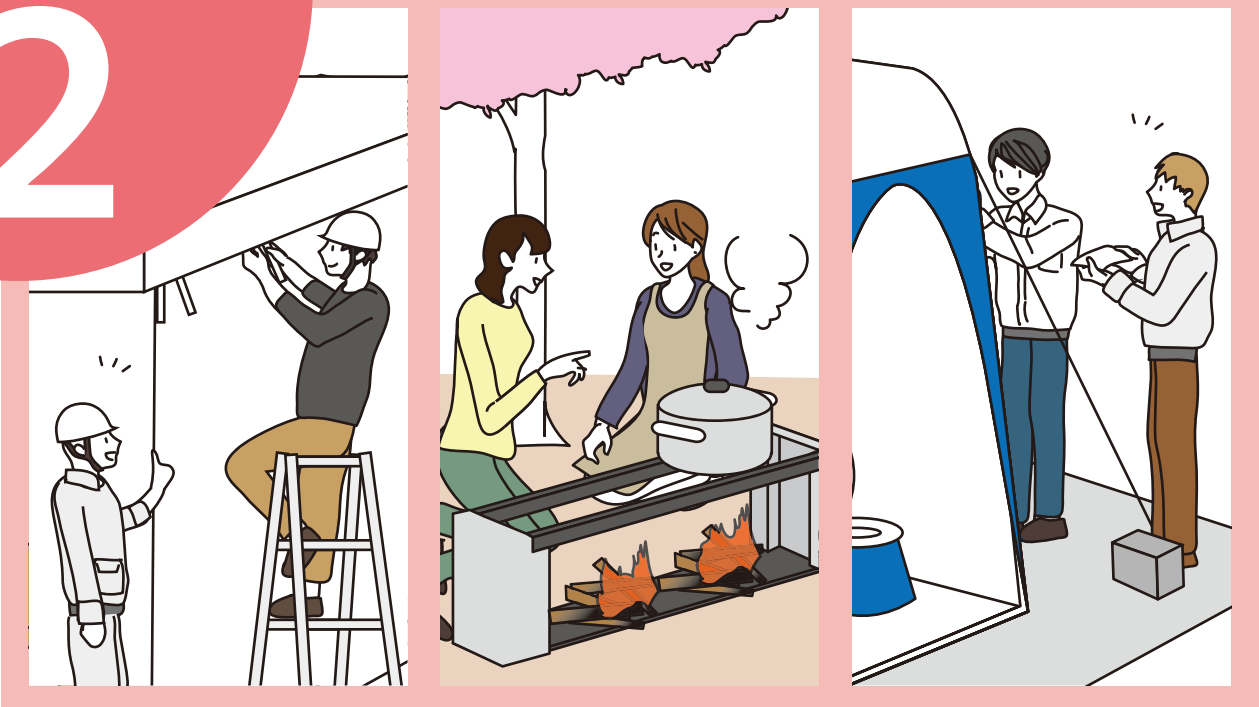
地震がおきたときは、まずは身の安全を最優先に行動すること、いわゆる「自助」が大切です。自宅の倒壊や火災の発生などの危険があった場合は、公園や学校の校庭など身近なオープンスペースに避難することが重要です。

地震直後の車での避難は 危険

過去の震災では、道路のひび割れ、マンホールの隆起、電柱の倒壊、停電による信号機の停止、交通渋滞などの問題が発生しています。地震直後の車での避難は危険なので控えましょう。

津波や水害の場合には 注意が必要

沿岸部の公園や河川敷などのオープンスペースは、建物の倒壊や火災の避難場所として安全であっても、津波や水害に対して危険な場合があるので注意が必要です。



公園の防災施設を使ってみよう

公園にある防災施設は、実際に使ってみることが大事。防災施設を一通り使える「知識」と「腕」を持つ、「防災施設マスター」を目指しましょう！！

！ 鍵は複数で持って おくのがカギ

防災倉庫など、日ごろは施錠して使用しない施設については、災害時に誰がカギを開けるか、日ごろから確認しておくことが大切です。その際に、カギの管理者自身が被災することも想定し、複数人でカギを管理することも重要です。

！ 使う機会を積極的に ふやそう

公園内に防災関連施設（防災倉庫、マンホールトイレ、かまどベンチなど）が設置されている場合は、日ごろから実際に使ってみることが大切です。

たとえば、防災訓練や地域のお祭りなどのイベントの機会などに、組み立て訓練や使用体験訓練を行っておくといざという時に役立ちます。

！ 誰でも使いやすく、 わかりやすい工夫が大事

災害時に、誰でも施設が使えるための工夫が必要です。たとえば、公園内に防災機能を有する施設があることやその使い方について、公園の中で分かりやすい場所に明示するなど、市職員と一緒に積極的な周知を行うことも有効です。



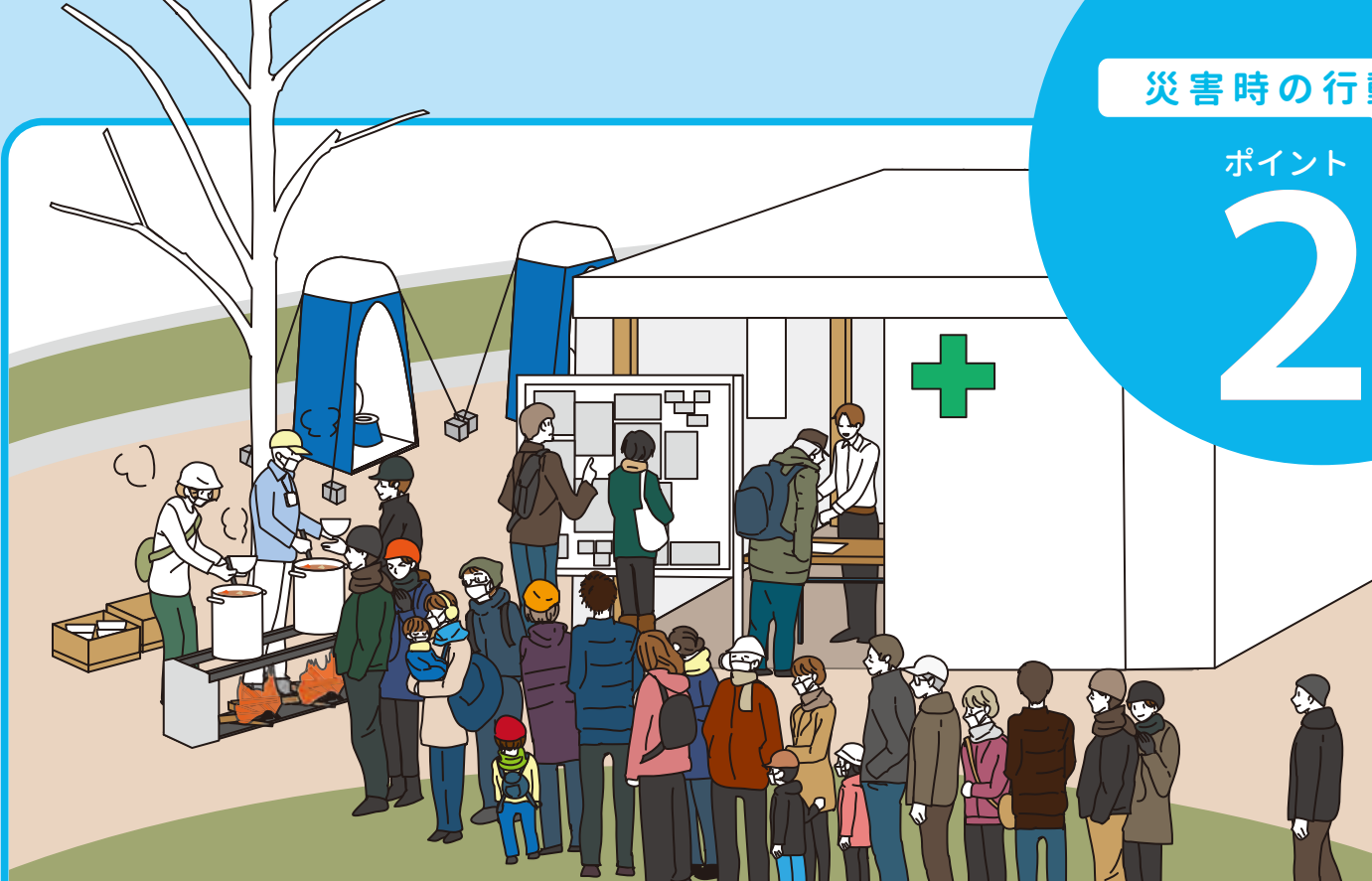
使用マニュアルの保管・掲示

ひと目で分かるように工夫されている！



イベント（北九州マラソン）での利用

毎年使って慣れていれば、災害時も安心！



知識と腕で防災施設を活かそう

耐震性貯水槽や防災トイレ、かまどベンチなど・・・、防災施設を災害後の生活に活かしましょう。地域に「防災施設マスター」がいれば安心ですね！

耐震性貯水槽

過去の震災からの教訓②

熊本地震では、断水により、自宅の水道水や水洗トイレが利用できないことが多かったようです。耐震性貯水槽を設置していた公園では、貯めていた水が飲料水として配られました。



▲耐震性貯水槽の利用

防災トイレ

過去の震災からの教訓③

熊本地震では、公園に仮設トイレや携帯トイレが設置されました。仮設トイレの組み立てでは、地域住民の皆さん手により行われたケースが多く確認されています。



▲災害用仮設トイレの利用と簡易トイレの配布

施設の不足は地域の助け合いでまかなおう

身近な公園では、防災関連施設は設置されていない場合も多いと考えられます。防災関連施設が設置されていなくても、地域住民で資機材を持ち寄って炊き出しを実施するなど、地域の助け合いや工夫で施設の不足をまかなうこともできます。



楽しくコミュニティを育もう

身近な公園を使って、地域のお祭りや、お花見、ピクニック……。地域みんなで楽しみながら、災害時に強いコミュニティを育てましょう。

！ みんなで楽しく 防災訓練をしよう

防災訓練に多くの地域住民の皆さんに参加してもらうことが、実際の災害時の適切な避難行動や地域の助け合いにもつながるため、たいへん重要です。防災に関連するゲームを実施する、非常食や炊き出しの試食体験を行うなど、子どもから大人までが楽しめる内容を盛り込む工夫を行うことも有効です。

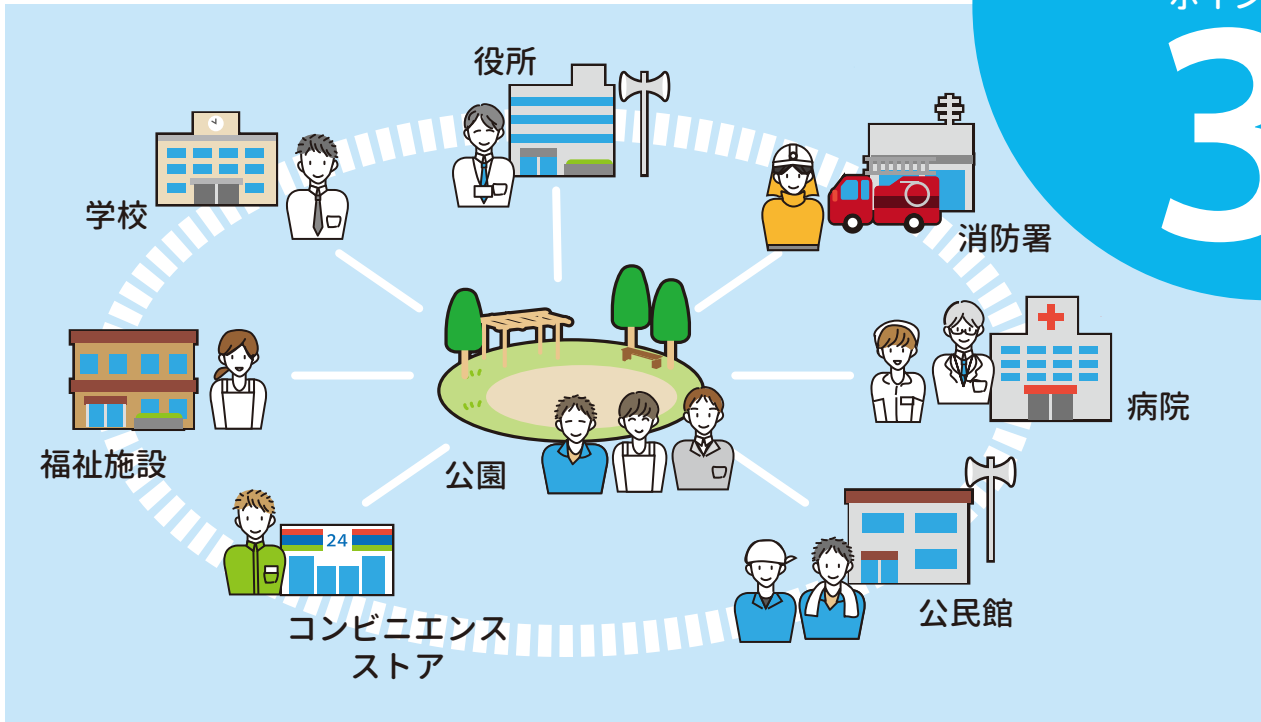
！ 地域のつながりを深め 顔の見える関係をつくろう

近年では、都市部を中心に、地域のリーダーの高齢化や地域内のつながりの希薄化が全国的な課題となっています。災害時に、地域住民の同士の助け合い、いわゆる「共助」による活動が行われるためには、近所間での交流や、花見や祭りなどの開催など、日ごろからの地域のつきあいを通じて地域内のつながりを強めることが重要です。

！ 公園でコミュニティを育もう！

災害時に公園が機能を発揮するためには、日ごろから地域の住民に親しまれる公園にしておくことが何よりも重要です。阪神・淡路大震災や熊本地震では、日ごろから自治会や公園愛護会等による公園の手入れ（草刈りや、トイレ清掃など）が行き届いている公園や地域の行事や子どもの遊びなどで活発に利用されている公園ほど、災害時に避難場所として多く使われる傾向がありました。





地域で助け合い、協力しよう

災害時に一番必要なのは、助け合い（共助活動）ができる地域の力。普段顔の見える関係が築けていれば、災害が起きたときも安心です。



地域の防災力を生かして、みんなで取り組もう

公園は通常、指定避難所でない（※詳しくはP18「間違えやすい用語」をご参照ください）ことから、原則としていわゆる「公助」（市役所職員による運営サポートや救援物資の配給など）の支援が行き届かないことが前提になるため、「共助」による活動が重要となります。炊き出しや住民への情報伝達など、災害時に必要な対応のすべてを公園でまかなうことはできません。地域全体でさまざまな地域組織や施設が助け合い、補い合って、各種の共助活動に取り組むことが重要です。

過去の震災からの教訓④

熊本地震などでは、公園は公助にほとんど頼らず、自助・共助による避難生活の場所として運営されました。自治会、自主防災組織、消防団、民生委員、公園愛護会などの地域のリーダーたちが中心になり、炊き出し、救援物資の集積・配布、防犯（避難生活中の空き巣被害防止）の呼びかけなどの活動が行われました。

過去の震災からの教訓⑤

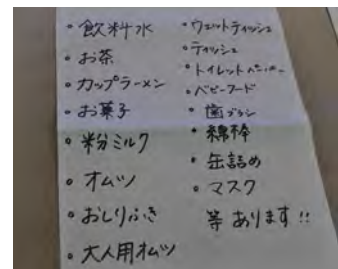
熊本地震では、地域にあるさまざまな施設を組み合わせて利用することで、公園での避難生活が行われました。例えば、炊き出しは福祉施設、情報伝達は公民館の放送施設、物資の供給はコンビニエンスストア、水洗トイレは近隣の病院を利用しているところもありました。



救援物資の集約・配布



炊き出し



物資の情報提供

事例に
学ぼう

みんなで楽しく!! 防災訓練

ぼうさい探検隊



災害時にスムーズに避難
できるように…

煙ハウスで火災体験



災害後の生活に必要なサバイバル力を高めよう!



防災グッズ展示会

防災デイキャンプ



火起こし体験やロープワーク、災害用トイレの組み立てなど、発災時に役立つ防災知識を楽しみながら学べます。身近な公園で実施すれば、災害時の疑似体験ができ、いざというときに役立ちます。

災害時も食はとても大事

ダンボールクッキング

食に関するプログラムは、子どもからお年寄りまで楽しめるので、多くの参加者にとって魅力的。災害時に役立つ調理法や道具の使い方を学びましょう。



防災かまどベンチ炊き出し訓練



災害後の生活はチーム戦！災害に強い地域になろう！



搬送訓練タイムトライアル



緊急車両ペーパークラフト



チーム対抗バケツリレー



消防隊員とロープ渡り体験

防災マップをつくろう

自分たちの地域は、災害時どこが危険？どこに避難するのか安全？
まちを歩いて、みんなでオリジナルの防災マップをつくりましょう。

防災マップのつくり方・使い方

1 まちを歩いて知ろう

災害時に役に立つ施設や危険な場所、災害時要援護者がいる施設などを確認しよう。

自分たちの地域の防災面での強み・弱みを実感できます。

2 マップをつくろう

まち歩きで確認したことを、地図に書き込もう。

災害時に必要な情報を、地域みんなで共有することができます。

3 防災力を育もう

作成した防災マップを使って、防災訓練をしよう。

訓練を繰り返し行うことで、地域の防災力をさらに高めることができます。

防災マップづくりを通して…

地域住民が協力し、自立的な避難行動ができる力が身につきます。
いざという時に助け合える、地域コミュニティの強化につながります。

自分たちで考え、自分たちで行動しよう！

みんなで
Check!

防災マップの作成例



マイ持ち出し袋を用意しよう

いざというときすぐ持ち出せる！避難所まで持ち歩ける！
自分のライフスタイルに合った必要最小限の「マイ持ち出し袋」を用意しよう。

避難用持ち出し袋を用意しよう



- 避難したとき必ず必要になる最小限のものを袋につめよう。
- すぐ持ち出せる場所に置いておこう。

両手が空くリュックがおすすめ

予備電池も！

防寒対策にもなる！

<input type="checkbox"/> 懐中電灯	<input type="checkbox"/> ライター	<input type="checkbox"/> ナイフ
<input type="checkbox"/> 携帯ラジオ	<input type="checkbox"/> ロウソク	<input type="checkbox"/> 衣類
<input type="checkbox"/> ヘルメット	<input type="checkbox"/> 水	<input type="checkbox"/> 哺乳瓶
<input type="checkbox"/> 防災頭巾	<input type="checkbox"/> 食品	<input type="checkbox"/> 現金
<input type="checkbox"/> 軍手	<input type="checkbox"/> インスタントラーメン	<input type="checkbox"/> 救急箱
<input type="checkbox"/> 毛布	<input type="checkbox"/> 缶切	
<input type="checkbox"/> 電池		

避難時持ち出し用

まとめておきたい大切なもの

- | | | | |
|--------------------------------|------------------------------|--------------------------------|-------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 家族の写真 | <input type="checkbox"/> 株券 | <input type="checkbox"/> 健康保険証 | <input type="checkbox"/> 年金手帳 |
| <input type="checkbox"/> 貯金通帳 | <input type="checkbox"/> 免許証 | <input type="checkbox"/> お薬手帳 | <input type="checkbox"/> 印鑑 |

外出中にも安心を持ち歩こう



- バックに入れておこう。
- 携帯ラジオの乾電池は外しておこう。

おでかけ携帯用

- | | |
|-----------------------------------|---|
| <input type="checkbox"/> 携帯ラジオ | <input type="checkbox"/> 小銭 |
| <input type="checkbox"/> 携帯電話用充電器 | <input type="checkbox"/> 水筒 |
| <input type="checkbox"/> ホイッスル | <input type="checkbox"/> 乾電池 |
| <input type="checkbox"/> マップ | <input type="checkbox"/> 携帯トイレ |
| <input type="checkbox"/> ライト | <input type="checkbox"/> エマージェンシーセット・ブランケット |
| <input type="checkbox"/> 歯ブラシ | |

会社で用意する以外のものを



- 会社に泊まることや歩いて帰ることを想定しよう。

会社からの避難用

- | | |
|---------------------------------|---------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 歩きやすい靴 | <input type="checkbox"/> 救急セット |
| <input type="checkbox"/> ライト | <input type="checkbox"/> 簡易トイレ |
| <input type="checkbox"/> 寝袋 | <input type="checkbox"/> 非常食 |
| <input type="checkbox"/> 水筒 | <input type="checkbox"/> 軍手 |
| <input type="checkbox"/> ヘルメット | <input type="checkbox"/> レインコート |

自分にあわせてカスタマイズ

日々の生活での必需品は、災害時にも必需品。
自分の生活、健康状態などに合わせましょう。

たとえば子育て中のお母さんは



好きなおもちゃ、お菓子、水、迷子になった時のためのカード

- | | |
|-------------------------------|----------------------------------|
| <input type="checkbox"/> オムツ | <input type="checkbox"/> スプーン |
| <input type="checkbox"/> 粉ミルク | <input type="checkbox"/> 幼児食 |
| <input type="checkbox"/> 哺乳瓶 | <input type="checkbox"/> 長袖・長ズボン |
| <input type="checkbox"/> スプーン | <input type="checkbox"/> 抱っこひも |
- などなど...

女性

生理用品、マスク、クシ、ブラシ、化粧品、下着、ヘアゴムなど

高齢者

介護手帳、紙オムツ、入れ歯、補聴器など

障がい者

障がい者手帳、ホイッスル、杖、ラジオ、筆記用具、など

ペット

ペット用品

避難生活のための「備蓄」も大事。

支援が届くまでの1週間、安心して暮らすために。
各家庭の環境にあわせて備えましょう。

食品

- 水（飲料水、調理用など）
- 主食（レトルトご飯、麺など）
- 主菜（缶詰、レトルト食品、冷凍食品など）
- 缶詰（果物、小豆など）
- 野菜ジュース
- 加熱せず食べられる物（かまぼこ、チーズなど）
- 菓子類（チョコレートなど）
- 栄養補助食品
- 調味料（しょうゆ、塩など）

生活用水や季節で必要な水の量を自分で考えてみよう！
最低限必要な飲料水は、1日1人500ml×3本

生活用品

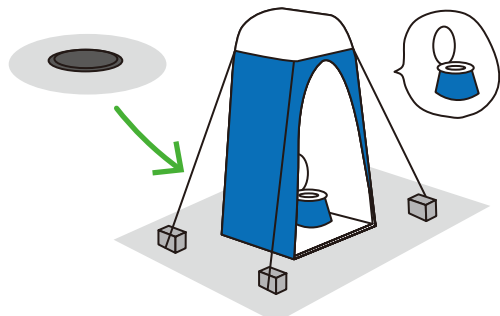
- 生活用水
- 救急箱
- 持病の薬・常備薬
- ティッシュペーパー
- トイレトペーパー
- ウェットティッシュ
- 生理用品
- 懐中電灯
- 使い捨てカイロ
- 乾電池
- ゴミ袋、大型ビニール袋
- 簡易トイレ
- ライター
- 充電式などのラジオ
- 携帯電話の予備バッテリー
- ラテックス手袋

- これもあつたら便利!
- 低刺激で色々使えるおしりふき
 - お血代わりに使えるキッチン用ラップ
 - 伝言や名前を書くのに便利なマジックペン

知っておこう！公園の防災施設

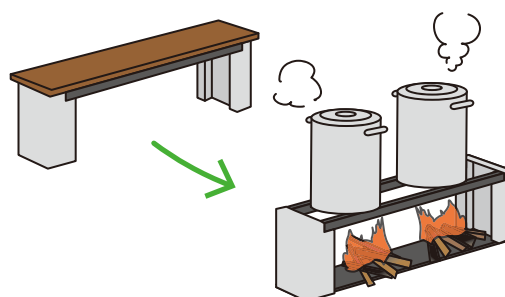
公園の施設の中には、災害時に役立つ機能を備えたものが色々あります。身近な公園にもあるかな。どこにどんな施設があるか、チェックしてみよう。

マンホールトイレ



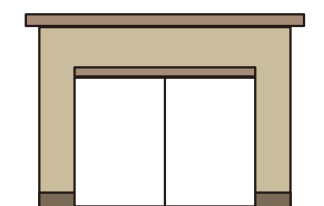
災害時にはマンホールのふたを開け、その上にトイレを設置することにより、非常用のトイレとなります。

かまどベンチ



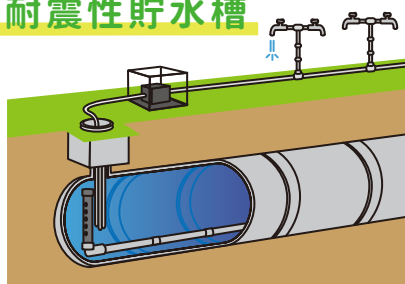
いつもは腰かけて休憩できるベンチ。災害時は座板を外して備え付けの金網を使ってかまどとして使うことができます。色々なタイプがあります。

防災倉庫



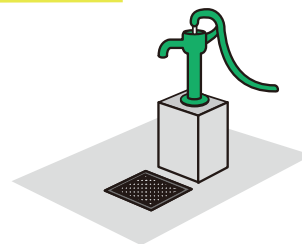
救助資器材などが入っている倉庫。災害時には中の資器材を出して拠点本部や応急救護所としても使えます。

耐震性貯水槽

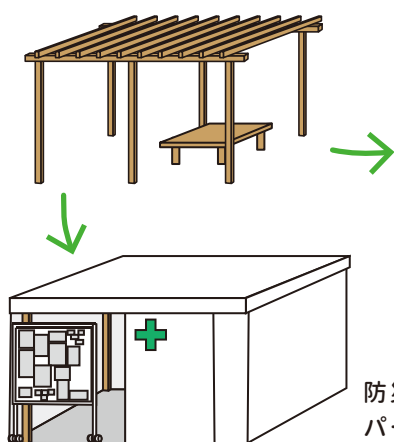


災害によって水道等のライフラインが断絶した場合の、当面の飲料用水、防火用水、生活用水等として利用することができるように、耐震性貯水槽や防災井戸を設置している公園もあります。

防災井戸



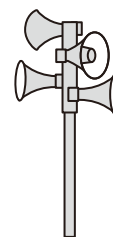
パーゴラ



災害時にブルーシートを張ると、応急救護所や仮設本部等になります。防災倉庫と同様、様々な使い方ができます。

防災用のテントが備え付けられたパーゴラがある公園もあります。

放送施設



屋外スピーカー等の放送施設がある公園では、避難者への災害や物資の配給に関する情報発信、防犯（避難生活中の空き巣被害の防止）の呼びかけ、ラジオ体操によるエコノミー症候群予防などを行うことができます。

みんなで
Check!

防災施設が設置されていない公園でも、資機材を持ち寄って工夫すれば、公園を避難生活に活用することができます。身近な公園を震災後にどのように使えるか、日ごろから地域で考えておくことが大切です。

災害時のトイレ対策

地震が発生すると、いつも使っているトイレが使えなくなることがあります。過去の震災でもトイレが大きな問題になりました。自分たちにできる「備え」をしておくことが大切です。

熊本地震に学ぶトイレ問題

熊本地震における公園利用の実態調査では、とくにトイレの断水が問題になったことが分かりました。地元住民のヒアリング調査から得られたご意見を以下に示します。

よかったこと

自治会だけでは、トイレ掃除は対応できないと思い、トイレを最後に使用した人が掃除を行うというルールをつくった。

地域の子供たちがトイレ掃除を手伝ってくれて大いに助かった。

熊本は湧水が豊富なため、断水しても湧水でまかなえた。

公園のトイレは使えなかったが、近くの病院のトイレが使えた。公園の避難者は病院のトイレを使用した。

校区の消防団が水洗トイレの水として、川の水をポンプで組みあげてくれて助かった。

大変だったこと、今後の課題

公園における避難生活で最も困ったのは、断水によりトイレを流す水に不自由したこと。

近所の家の井戸水をバケツでくんで公園と老人憩いの家のトイレに利用した。

閉鎖したトイレの周りに大便をする者などいて、土に埋めたりすることも行った。

避難時のトイレのマナーなどに問題があり、自治会で清掃をした。

水が出るまで1ヵ月ほどかかり外のトイレは汚物がそのままの状態では放置されていた。

仮設トイレやマンホールトイレがあるとよい。

断水した場合でも水が確保できるように、雨水を貯めておくタンクの設置を検討すべき。

マンホールトイレの蓋を開ける際に、工具類がなかったため一苦労した。

災害時に備えて今できること

トイレの確保計画

災害時に何人の人が避難して、どのくらいのトイレが使われるか、まずは確認。

災害用トイレの確保

災害時に、既設トイレが使用できなくなった場合に備えて、携帯トイレ、簡易トイレ、仮設トイレ、マンホールトイレなど災害用トイレを確保しておきましょう。携帯トイレは一人あたり15個程度(1日5個×3日分)が目安です。また、災害用のトイレがない場合は、応急対応として、段ボールなど現場にあるものを活用してトイレをつくる工夫も必要です。



携帯トイレ



簡易トイレ



段ボールトイレ

写真(携帯トイレ、簡易トイレ): 兵庫県「避難所等におけるトイレ対策の手引き(H26.4)」
(段ボールトイレ): 特定非営利活動法人 日本トイレ研究所

マンホールトイレが設置されている場合は使用方法の確認

高齢者、障がい者、女性、子どもなどの災害弱者の使用に関する配慮の検討

みんなで
Check!

健康管理・衛生管理のポイント

公園で一時的な避難生活を送る上で、健康管理や衛生管理に取り組むことは、とても大切。気をつけるポイントを共有しみんなで協力して取り組みましょう。

避難場所となった公園では、ノロウイルスなどの集団感染のリスクがあるため、感染制御が必要となります。新潟県中越地震、東日本大震災、熊本地震では、避難生活の際にエコノミー症候群の発症による震災関連死が問題になりました。さらに、トイレの断水に伴って、トイレを我慢することが、脱水症状や震災関連死につながることも指摘されています。

消毒の呼びかけ

災害時はウイルス・細菌がこわい。
水がない場合は手指消毒を！



ラジオ体操の実施

エコノミー症候群に気をつけて！
こまめに体を動かしてリフレッシュしましょう。

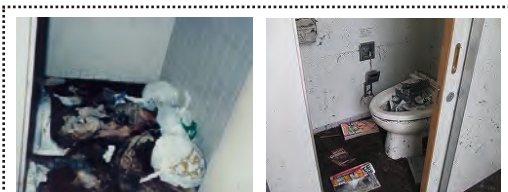


トイレの清掃

トイレをがまんしないことが大切。
安心して行けるトイレ環境づくりをみんなで。



！ 特に、断水している状況でトイレ清掃を実施することは非常に困難なため、熊本地震でも各避難場所で深刻な問題となりました(詳細は p16 参照)。トイレ掃除については、特定の人が担当してその問題を抱え込むのではなく、避難している地域みんなで当番制にするなどのルールをつくるのが大切です。



▲阪神・淡路大震災のトイレ(左)と東日本大震災のトイレ(右)
写真：特定非営利活動法人 日本トイレ研究所

備えておこう！衛生対策グッズ

アルコール消毒液

ウェットティッシュ

ポリ袋(ゴミ袋)

消臭剤



手指消毒に！



トイレの環境づくり！



みんなで Check!

— おさらい —

防災公園の特徴

**大事な避難場所。
避難生活の場と
なることも。**

地震災害における公園の防災機能の一番の特徴は「オープンスペースの存在自体」といえます。

**災害時に役に立つ
防災関連施設や、
設備がある。**

防災公園は防災倉庫、耐震性貯水槽、マンホールトイレなどの防災関連施設を有しています。

**災害時に機能する
ために地域で使い
こなすことが大事。**

災害時に地域で使えるように日頃からみんなで助け合い、連携しておくことが大事です。

だから …

だから …

だから …

みんなで繰り返し
行うことが大事！

日ごろの備え

ポイント

1

身近な公園と
地域のことを
知ろう。

ポイント

2

公園の
防災施設を
使ってみよう。

ポイント

3

楽しく
コミュニティー
を育もう。

日ごろ備えておいて
災害時は冷静に！

災害時の行動

ポイント

1

落ち着いて
安全に避難
しよう。

ポイント

2

知恵と腕で
防災施設を
活かそう。

ポイント

3

地域で
助け合い、
協力しよう。



日ごろの備えと災害時の行動は
表裏一体！身近な公園で日ごろ
から楽しく災害に備えましょう。

間違いやすい用語

■避難所

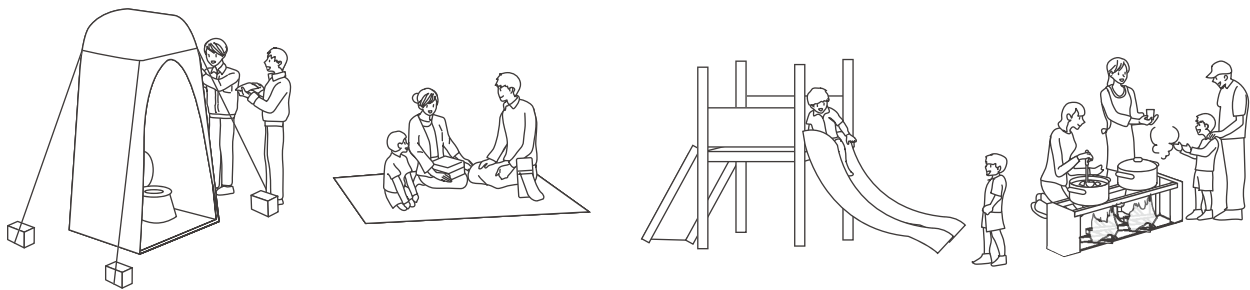
避難所とは、地震等による家屋の倒壊、焼失などで被害を受けた方又は現に被害を受ける恐れのある方を一時的に受け入れ、保護するために開設する学校、公民館等の建物のことをいいます。

■避難場所

大地震時に発生する延焼火災やその他の危険から避難者の生命を保護するために必要な面積を有する大規模公園、緑地等のオープンスペースのことをいいます。



公園は「避難場所」に指定されていますが、体育館などの建物のある一部の公園を除いて、ほとんどの公園は「避難所」として指定されないことに注意が必要です。なお、必要に応じて災害時に避難所開設の申告を行うことが可能です。



ご意見・ご感想は下記までお問合せください。

国土交通省 国土技術政策総合研究所
緑化生態研究室

029-864-2742
nil-ryokkaseitai@ml.mlit.go.jp